

| | | |
|---------------------------|----------------------|--|
| <p>ASUNARO</p> <p>翌 檜</p> | <p>第 六 号</p> | <p>発行 横浜商科大学留学生会 所在地 〒 230-8577 横浜市鶴見区東寺尾丁目11-1 編集人 横浜商科大学留学生会 盧 凡</p> |
|---------------------------|----------------------|--|

留学生委員長として

教授 村上 一郎



前留学生委員長、尾関先生より引き継ぎ、昨年10月1日より委員長に就任した村上です。最初に留学生の皆さんとお会いしたのは、前留学生会長・郭文輝君の指揮のもと、日本人の他のゼミの学生諸君の協力により、六号館学生食堂で留学生フォーラムが盛大に行われた時でした。

内容は、異文化料理対決のゲームとして、各グループに分かれた学生達によるオリジナルの寿司制作でした。寿司に使われるタレは醤油、ソース他にも「変わった味を競いあいました。先生方が審査員となり付け・見た目、アイレ、総合点により選考上がりとなりました。

次は12月に留学生区にある横浜市国際した留学生全員の自卒業後の進路の説明



れる具材は多種多様。つス、ケチャップ、香醋、もの」が色々あり、その私を始めとし参加されたり、味覚だけでなく、盛デアの斬新性等を取り入るもので、大変な盛り

の卒業パーティーが鶴見学生会館で行われ、参加己紹介の後、4年生から、や後輩にアドバイスをし

てもらい楽しい時間を過ごしましたが、参加者がとても少数であったことが残念でした。

次回からは連絡を早くするよう改善し、多勢の留学生が参加をしてくれることを望みます。

新年度（平成16年度）には新入生30名を迎え（留学生総数92名）、新留学生会長に葛文海君を迎えた最初の行事は、新入生歓迎ハイキングとして生麦にあるキリンビール工場と鶴見駅近くの総持寺見学でした。開学記念日の4月18日当日は晴天に恵まれ、参加者50名はつるみ校舎に集合し、徒歩でキリンビール工場にむかいました。途中、生麦事件碑を見学し、その後工場に到着しました。工場スタッフの案内で工場内を見学しましたが、当日は休日ということで残念ながら製造工程は稼働していませんでしたが、見学の終了後にはビールやおつまみが配付され、さらにはビールを美味しく飲むための注ぎ方が伝授されました。

その後、工場を後にして総持寺にむかい境内、堂内を巡り、案内していただいた僧侶の方から建物の歴史や、仏教のお勤め等、為になる説明を享け留学生一同も神妙に、その話を聞き入っていました。

6月26日・27日には毎年恒例になっている一泊二日の留学生課外授業を企画し、日本人学生を交え、総勢で65名の参加人数により御殿場の前島秀章美術館から河口湖、翌日は青木ヶ原にある富士風穴・鳴沢氷穴、富士山五合目という行程での見学旅行が行われました。日本の風景の象徴である富士山の雄大さには、留学生達も感動していました。富士山を背景に留学生、日本人学生ともに国際交流・理解にも一役買った有意義な課外授業となったようでした。

このような行事を経て、留学生の皆さんは大きな期待をもって日本に留学して来たことが感じとれました、そのような希望を消さないためにも、私から留学生諸君に期待する事は学内および学外における行事やボランティア活動等への積極的な参加をしていただきたいということです。そのための大学での国際交流活動や留学生会の活性化のために私も一所懸命、皆さんに協力をしたいと思っております。これからもよろしく願います。

今年の4月18日新入生歓迎会として生麦にあるキリンビール工場と鶴見駅近くの総持寺を見学しました。新入生の感想としては、いかがだったでしょうか？

1年生 王昱

私にとって、この前のハイキングは非常に有意義でした。留学生たちの友情を深めるだけではなく、日本企業の経営方法と日本の宗教文化を十分に学びました。

大体の人は、青島ビールを聞いたことがあると思います。しかし、私は青島の人として、青島ビールの味以外は何も知りません。だから、この前のキリンビール工場の見学で私はビールの基礎を知り、日本企業のことがよく理解できました。商学部の学生にとって、ここは教室のような所だと思います。中国では、ほとんどの企業は対外開放ができません。専門家以外の人には企業の商品に対し深い理解ができないと思うので、知らず知らずのうちに、販売量は少なくなっていくと思います。この問題に対して、キリンビールへという企業がもっと多くの人たちにビールのことを知らせるにともない、この商品を好きになってくれる人が増えると思います。それによって、販売の範囲も広がるでしょう。キリンビールの缶のふたに点字があります。こうすると、目が不自由な人たちが買うことができます。1998年から、キ



リンビールの生産活動の副産物として、廃棄物再資源化率は100%に達し現在も継続しています。このようにすると環境を保護できるだけでなく企業の利益も増えていきます。先に述べたことを青島ビールは、まだやり遂げていませんから、キリンビールに学ぶ点があります。

次に訪れた場所は、総持寺でした。そこで、私は子供の時に一休さんというアニメーションを見たことを思い出しました。その時、私は日本

寺院の生活を少し知りました。私の記憶で印象に残っていることは、日本のお坊さんは毎日雑敷布がけすることでしたが、この見学でこのことを実際にお坊さんから説明を受け、証明されました。最後にこのハイキングで私は日本の知識を、ここで書ききれないほどのことをたくさん学びました。





1年生 李 順花

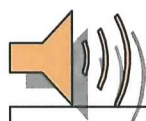
4月18日の留学生ハイキングで麒麟ビール工場と総持寺を見学して来ました。

麒麟ビール工場見学でビールの原材料の麦の種類によってできたてのビールの味が違うのがわかりました。ビールの原材料となっている麦は四種類で匂いも色も違っていました。私にはどうしてもその一粒の麦でビールができるのが考えられません。そこで、一番不思議に思われたのが

缶ビールに賞味期限などを刻み上げることでした。なぜなら、缶ビールがこの目でおいつかない程の速さで回っているのに、下からその速さに応じて正確に刻み上げるからです。見学が終わってビールの試飲がありました。その生ビールは口に入った瞬間炭酸が反応して、ふわふわした感じ、薄い苦みがのどを通ったとたん、のどがすっきりとなりました。今まで飲んでいたビールでは一番美味しいと思いました。さすが現地ビール、夏になればと絶対私の好物になると思います。

次は総持寺へ行きました。私は仏教徒ですので、昔、国にいた時一週間に一回ぐらいお寺へ行きました。日本に来ている人はお寺へ行ったとはいえ、お寺というより観光地に行くようなものだと思っていました。しかし総持寺は本当の意味でのお寺だと感じました。さすが歴史が長いお寺です。中国のお寺と飾り付け方は違いますが、雰囲気は同じでした。お寺に三種類の鐘が置いてあります。ガイドしてくださったお坊さんから聞きましたが、その三つの鐘をあわせて「今は何をやる時間かを表す」と言っていました。見学途中で鐘が何回も鳴りましたが、私には何をやる時間が全然わかりませんでした。

このハイキングを通じて先輩たちとも知りあい、先生たちとも楽しく一日を過ごしました。今度ももしハイキングがありましたらぜひ参加したいと思います。



平成16年：後期留学生会の活動予定

留学生会では、次の活動を予定しております。留学生のみならず日本の学生の参加も歓迎いたしますので、是非一緒に参加して下さい。

飯山祭 平成16年10月30日(土)、31日(日) つるみキャンパス
留学生会が料理屋台を出し、各国の本場の美味しい料理をつくります。

留学生フォーラム平成16年10月30日(土) 14時～17時 つるみキャンパス
131教室 <テーマ：私の故郷>

4年生の送別会 平成16年12月11日(土) 15時～18時 鶴見国際学生会館
(鶴見区 本町通り) 留学生4年生の卒業を祝うパーティーを行います。

(都合により日程を変更する場合がありますので、詳細は掲示板に掲示します。そちらを参考にしてください。)

私には夢があります。人類の幸福に私が貢献できること。社会、組織、家族、それぞれを幸せにできること。そして、私自身がそれによって幸せを感じられること。人類の夢、社会の夢、組織の夢、家族の夢、それが私の夢になること。それが私の夢です。

32歳になった私にとって、夢というものより目標といったほうがいいだろう。小学校時代から外の世界を見たい、家を出て、旅行をしたいという夢があり、現在年をとり、色々なことを考えながらその夢をずっと持ち続けている。人生に夢があるのではない、夢が人生を作るのだ。私がどんな人生を送るのをはっきり分らない、行き先が分らない、しかし、前に進むだけだ。今、自分のことを考えるだけで、頭が痛くなる。毎日、学校に行き、周りの若い人から強い圧力を感じてしまう。私の存在がどんなものかその答えを知りたくなる。丘の上の松が無理ならば、谷あいの低木になればよい。皆が船長にはなれないので。水夫になるものもいるだろう。今年の目標は食べ過ぎない、眠りすぎない、肥りすぎないことだ。私には色々理解できないことがある。生き続けて行けば、きっとわかって来るだろう。

2年生 郭 豊祥

私の夢

小さい時から色々な夢を見て来た。作家になりたかった、先生になりたかった、社長になりたかった……夢は変わりながら大きくなって来た。今の私はとりあえず日本語の一級を目指して、挑戦すること、四年の大学は無事に卒業すること。これが私の夢だ。

日本に来て6年になり、昔の夢はもう遠さかった。振り向くとき、何にも実現しないままに終わってしまっている。中国に帰るたびに、父に今もし中国に戻ったら、通訳になれる自信があるかと聞かれた時、恥ずかしくて、何も答えられなかった。父に返事が出来るようになるため、去年、日本語の一級の試験を受けた。けれども、落ちた。その時、情ないというよりも、自分をもう一回見つめなければならぬ。例えどんな小さい夢でも、只の空想ではなく、着実に努力することだと気が付いた。

大学に入れば、一步一步前へと進む、良い機会になると思う。自分の弱い部分に挑戦して、困難を克服して、一日もより、早く夢に近づくように、頑張れば夢は単なる夢ではないと信じている。



2年生 王淑红